

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：34425

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02238

研究課題名(和文) 日米の新資料による日本仏教グローバル化過程の研究 鈴木大拙を事例として

研究課題名(英文) An Archival Study of the Globalization of Japanese Buddhism in Japan and the United States: New Findings from D. T. Suzuki's Unpublished Writings

研究代表者

守屋 友江 (Moriya, Tomoe)

阪南大学・国際コミュニケーション学部・教授

研究者番号：30340847

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：欧米で「仏教モダニズム」と称される、アジアの伝統と異なる仏教が流布する過程で、鈴木大拙の仏教思想が影響を与えたことは知られている。彼の思想は日本仏教グローバル化のモデルとされながらも、その欧米経験や人的交流の歴史的検証は遅れている。そこで本研究では、鈴木大拙の思想と欧米の仏教受容との相互関連性を解明するため、国内外のアーカイブスで新資料を調査・発掘し、翻刻と目録作成を行って歴史的検証の基礎を築いた。さらに鈴木と関連する同時代の宗教者や思想家との比較から、鈴木大拙の仏教思想のグローバルな展開の意義を実証的に明らかにした。研究成果は論文、図書、学会発表のほか、シンポジウム等を開催して広く公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究では、実証的な検証がないまま鈴木大拙の一面のみ取りあげたり、グローバル化を日本から海外へという一方向で捉えがちであった。そこで本研究はまず国内外のアーカイブス所蔵の新資料を調査し、目録作成や翻刻を行って、向後に有用な実証的研究を行った。鈴木大拙の仏教思想を事例に、彼と同時代の宗教者との比較や国際的な人的交流を視野に入れて研究して、仏教や日本文化に関する発信が海外で神智学など仏教以外の霊性運動と併せて受容され、鈴木大拙も海外の宗教者から影響を受けたことが明らかになった。こうした東西の双方向的な宗教思想の交流を、鈴木大拙をとりまくトランスナショナルなネットワークから複眼的に明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：Daisetz T. Suzuki has influenced the spread of “Buddhist Modernism,” a new modern trend quite different from Asian traditions. Although previous studies mostly depicted his discourses, particularly English works, as exemplifying the globalization of Japanese Buddhism, researchers have called for further historical analyses of his experiences in the West and his personal exchanges. However, this project instead studied unpublished archival materials in Japan and the United States. By transcribing and cataloging primary sources, the team introduced a new analysis based on reliable historical documents, including comparative studies of Suzuki and his interactions with his contemporaries. The team members presented their findings in academic journals, books, and panel/individual presentations at academic conferences. The team also held symposia and workshops to publicize their research widely.

研究分野：宗教学

キーワード：鈴木大拙 日本仏教グローバル化 仏教モダニズム 南イリノイ大学図書館所蔵資料 ニューヨーク禅堂正法寺所蔵資料 ハワイ大学図書館所蔵資料 東西思想交流 トランスナショナルなネットワーク

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

鈴木大拙の仏教思想については、1990年代より欧米の仏教学者による批判が起こり、現在も毀誉褒貶の議論が続いている。また近年では国内外で近代仏教史研究が進展し、明治期青年知識人らの仏教運動に鈴木思想を位置づける試みも進んでいる。しかし、没後50年後でも伝記的研究が不十分なため、議論の共通基盤がないという根本的な問題があった。他方で、国内外のアーカイブ所蔵資料は、彼が交流を持った多彩な宗教者や思想家との関わりを示すものの、十分な調査が行われていなかった。そこで、これらのアーカイブ資料を調査し、鈴木と彼を取りまく人的ネットワークを明らかにして、日米をまたぐ越境的な仏教史という視点から、日本仏教グローバル化を実証的に解明しようとしたのが本研究の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、鈴木大拙のほか彼と交流のあった宗教者や思想家に関して、国内外のアーカイブ所蔵資料の調査、日本仏教グローバル化の調査によって、未整理資料の整備と目録作成、資料の翻刻と電子化を行うことを目指す。最終的には、国内外の資料を照合してどういう過程を経て仏教がグローバル化していったか、その具体的かつ多彩な様相を実証的に明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

当初は、国内でのアーカイブ調査を主に行っていたが、研究の過程で公益財団法人三菱財団の人文科学研究助成を得ることができたため、日本国内だけでなく海外資料調査を積極的に実施した。海外で調査を行ったアーカイブは、南イリノイ大学図書館、ニューヨーク禅堂正法寺、ハワイ大学図書館である。2019年度末に新型コロナウイルスによる調査の縮小を余儀なくされたものの、幸いそれまでに収集した資料が多くあったため、期間を延長して2020年度にそれらの目録作成や翻刻を進めた。

4. 研究成果

本研究は国内外にて資料調査を行って新資料を発見し、また研究成果として論文32本、図書(共著含む)9冊を刊行し、学会発表はパネルと個人発表を2018~2020年度に、国際ワークショップと公開シンポジウムを2017年度に、公開ワークショップと研究会を2018~2020年度にそれぞれ実施した(他の科研、研究助成との共催を含む)。デューク大学、オーバリン大学、ミシガン大学の海外研究者との共同研究により、アメリカ国内で所蔵されている未公開資料について情報と教示を得て、研究を深めることができた。

2019年度末に新型コロナウイルス感染拡大防止のため研究が行えなかった分を、2020年度に実施している。各年度の成果は下記の通り。

2017年度

松ヶ岡文庫での鈴木大拙・ピアトリス夫妻の未整理資料の整備・調査を開始し、文庫所蔵洋雑誌コレクションの整理と調査、目録作成を行った。鈴木夫妻関連資料では、これまで看過されてきたピアトリス関連資料からノート類を整理・調査して、ここから彼女の仏教理解が神智学やニューソートなどの影響を受けたものであることが明らかとなった。既存の洋雑誌目録は、修正の必要な箇所が多かったため、蔵書調査によって所蔵雑誌をすべて確認し、目録データを修正した。

また、論文6本、図書1冊を刊行したほか、国際ワークショップと公開シンポジウムを開催した。

国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学」(2017年12月9~10日)

鈴木夫妻と関係の深い神智学に関する他の科研(代表・安藤礼二、課題番号26284054)と共催で開催した。鈴木宗教思想を神智学のグローバルネットワークとの関連から捉えた発表が行われ、討議を通して国内外の研究者からの知見を得た。プログラムは以下の通り。

セッション1:「禅のグローバル化と、その文脈」(12月9日)	発表:日沖直子(南山宗教文化研究所)「雑誌『イースタン・ブディスト』と神智学」、荘千慧(大阪大学)「上海神智学支部と初代会長H・Pシャストリー」、末村正代(関西大学)「北米における禅布教:千崎如幻の場合」 コメント:守屋友江(阪南大学) 司会:堀まどか(大阪市立大学)
セッション2:「神智学の遺産」(12月9日)	発表:橋本順光(大阪大学)「在日インド人をめぐる諜報活動と神智学 アタル・シャストリ・サバルワル」、栗田英彦(学術振興会特別研究員)「キリスト教・社会主義・オカルト 関口野薔薇の「神道神学」の背景」、岡本佳子(国際基督教大学)「明治日本の欧米人仏教徒と神智学」 コメント:杉本良男(国立民族学博物館) 司会:岩田真美(龍谷大学)

セッション 3: 対論「鈴木大拙と南方熊楠 シカゴ万博・神智学・大乘仏教」(12月9日)	安藤礼二(多摩美術大学) 稲賀繁美(日文研)
Session 4: “Theosophy and Japan, Past and Present” (12月10日) 英語セッション	発表: Helena Capkova (Waseda University), “History of the Theosophical Society in Interwar Japan – Reading the documents from the Adyar HQ,” Ioannis Gaitanidis (Chiba University), “Western Esotericism in Contemporary Japan: The Case of a Greek Theosophical Study Group” コメント: Justin B. Stein (Bukkyo University) 司会: Akai Toshio (Kobe Gakuin University)

公開シンポジウム「大拙研究の周辺: 西田哲学と禅の近代化の視点から」(2018年2月16日)
鈴木大拙と西田幾多郎の思想的関連と、禅の語られ方の系譜についてそれぞれ研究を進める研究者による講演と質疑応答によって、多面的な研究を進める知見を得た。20名あまりの参加者があった。プログラムは以下の通り。

水野友晴(日独文化研究所)「純粹経験と靈性的自覚 西田と大拙をつなぐ「自覚」の問題」、コメント・末木文美士(日文研)
石井公成(駒澤大学)「近代における”Zen”の登場と心の探求」、コメント・吉永進一(舞鶴工業高等専門学校)

2018年度

公益財団法人三菱財団の人文科学研究助成に採択されたため、海外調査に着手し、2018年9月にハワイ大学図書館所蔵の Robert Baker Aitken Papers と、2019年3月にニューヨーク禅堂正法寺所蔵の資料調査を行った。さらなる新資料を発見し、鈴木と日米の仏教徒との交流が緊密にあることが判明した。主な人物としては、戦前からカリフォルニア州で禅を布教した千崎如幻、来日したアメリカ人仏教徒を静岡県の自坊で指導した中川宋淵、戦後日本で鈴木と出会い禅を学んだロバート・エイトケンであり、彼らとのネットワークが具体的に裏付けられた。資料が多いため、全体の翻刻や追加調査は次年度以降に行うこととして、資料の整理と目録作成の準備を行った。

また、論文9本と図書1冊を刊行したほか、学会等での発表を6本と公開ワークショップを開催した。

学会等での発表

安藤礼二	「鈴木大拙・折口信夫・井筒俊彦 「東方哲学」素描」、日本宗教学会第77回大会
パネル「東西を往還する日本仏教 鈴木大拙とその周辺の思想交流から」	発表: 日沖直子「Eastern Buddhist 第一期の購読者リストについて」、末村正代「千崎如幻の米国禅布教における特質 浮遊禅堂と東漸禅窟の実態」、岡本佳子「鈴木大拙と岡倉覚三 英語圏に伝えられた禅と日本文化」、守屋友江「アメリカ人に説く禅と真宗 鈴木大拙の在米講演に関する考察」 コメント: 吉永進一、日本宗教学会第77回大会
吉永進一	「忽滑谷快天について知っている、一、二の事柄」、明治仏教研究会
吉永進一	「鎮魂帰神法と大本教、再考」、日本新宗教史像の再構築」第1回公開研究会
赤井敏夫	“The Global Network a Vegetarian Restaurant in Dublin Represents,” International Yeats Society Symposium in Kyoto
赤井敏夫	「久米民十郎の再発見」、神戸学院大学人文学会第21回研究会

鈴木大拙研究会公開ワークショップ(2019年3月7日)

公益財団法人三菱財団人文科学研究助成との共催で開催し、三部構成で鈴木大拙研究を複眼的に捉える研究発表と討論を行った。第1部は研究分担者である安藤礼二の近著をもとに鈴木研究の今後の可能性について議論し、第2部は仏書の英訳に伴う試行錯誤の系譜について、第3部は青年期の鈴木が勤めたオープンコート社資料を所蔵する南イリノイ大学図書館所蔵資料の概要とその意義について、発表と質疑応答を行った。30名あまりの参加者があった。プログラムは以下の通り。

第1部「安藤礼二『大拙』を読む」	発題: 末木文美士(日文研) 飯島孝良(親鸞仏教センター) 名和達宣(真宗大谷派教学研究所) リプライ: 安藤礼二 司会: 井上克人(関西大学)
第2部	発表: 嵩宣也(龍谷大学・院)「英訳仏書の黎明期における「真如」の訳語とその諸相」 司会とコメント: 吉永進一

第3部	発表：長尾佳代子(大阪体育大学)「南イリノイ大学のオープンコート社資料について」 司会とコメント：守屋友江
-----	--

2019年度

国内では平井金三宅、松ヶ岡文庫、海外では南イリノイ大学図書館、ヘゲラー・ケーラス・マンションで調査と収集を行った。本年度より分担者として末木文美士、長尾佳代子が新たに参加した。当初の計画では最終年度であることから、これまでの国内外における調査による成果を、公開研究会を開催して発表した。

また、論文5本、図書3冊を刊行したほか、学会等での発表を3本と、公益財団法人三菱財団人文科学研究助成との共催による公開の研究会と公開ワークショップを4つ、他の科研との共催による公開ワークショップを開催した。

年度末に発生した新型コロナウイルスの感染拡大のため、予定していた調査を中止し、ワークショップの規模を縮小してオンライン開催に切り替えた。

学会等での発表

赤井敏夫	“‘Who Sang behind the Hawk’s Dance?’ The Formation of Oriental Images in Yeats’ Play’, 2019 IASIL International
赤井敏夫	‘Tamijuro Kume and International Lodge Tokyo’, 2019 International Theosophical History Conference
守屋友江	“D.T. Suzuki at the World Congress of Faiths in 1936: An Analysis on His Presentation at the Interfaith Conference,” Seminar on Japanese Buddhism in Europe (オーフス大学)

公益財団法人三菱財団人文科学研究助成との共催による研究会

鈴木大拙研究会(2019年6月29日)	マイカ・アワーバック(ミシガン大学)「昭和初期における欧米人参禅受入の試み 八幡達磨堂円福寺「外人禅堂」を中心に」、守屋友江「ニューヨーク禅堂とハワイ大学の拙大拙関連資料紹介」
鈴木大拙研究会(2019年8月4日)	ブライアン・ビクトリア「鈴木大拙禅とテロ行為」
オープンコート社資料報告研究会(2019年11月2日)	長尾佳代子「2019 SIUC アーカイブ調査報告」
鈴木大拙研究会ワークショップ(2020年3月20日、Zoom開催)	長尾佳代子「南イリノイ大学所蔵オープンコート資料調査報告 シカゴ万国宗教会議後、ヘゲラー邸を訪問した日本人が残した漢詩」、日沖直子「平井金三とシカゴ万国宗教会議～「条約改正」運動をめぐる新資料」、高瀬航平(東京大学・院、日沖代読)「平井金三とシカゴ万国宗教会議：「条約改正」をめくって」

合同ワークショップ「近代仏教から新宗教、そしてその後」(2019年12月21～22日)

科研基盤(B)「新宗教史像の再構築」(18H00614)(C)「雑誌メディアによる戦後日本の秘教運動の宗教史的研究」(JP17K02244)との共催。本研究に関わる発表は以下の通り。

吉永進一	ラウンドテーブル「近代仏教と新宗教をつなぐもの：プラクティスの問題」
吉永進一	ラウンドテーブル「ヨガ・三浦関造・関口野薔薇・中野義超・日本神学・三五教：戦後オカルトと宗教帰一運動」

2020年度

2019年度末の新型コロナウイルスで研究実施に制限が生じたため、オンラインに切り替え、前年度に積み残した翻刻等の研究を進め、また前年度末に実施できなかった公開ワークショップを、シカゴ万国宗教会議をテーマにした形へ発展させて共催した。

前年度までの海外調査で収集した日本語・英語の一次史料の翻刻を、新たに早川華代(大阪体育大学)、瀬戸祐規(大阪体育大学)、的場美帆(大阪体育大学)、リチャード・M・ジャフィ(デューク大学)、ジェームズ・C・ドビンズ(オーバリン大学)、ウェイン横山(花園大学)の協力を得て行うことができた。翻刻資料は、所蔵先の許可を得て2021年度以降に公開する予定である。

また、論文12本、図書4冊を刊行したほか、学会発表を2本、公益財団法人三菱財団人文科学研究助成金および科研基盤研究(B)20H0119との共催で公開ワークショップを実施した。

学会等での発表

末村正代	「近代における日本宗教の越境 千崎如幻を事例として」、宗教倫理学会夏季研修会
飯島孝良	「大拙の禅学における「霊覚」「矛盾的自己」をめぐる問いとして」、西田哲学会第18回年次大会シンポジウム「霊性」

グローバル禅ワークショップ（2020年6月20～21日）

1893年のシカゴ万国宗教会議を事例に、日本仏教のグローバル化を再考するワークショップを、公益財団法人三菱財団人文科学助成金および科研基盤研究（B）20H0119との共催でZoomにて開催した。この宗教会議は、先行研究でその歴史的な重要性が指摘されてきたが、言及される人物が一部に偏っているため、このワークショップではこれまで十分に論じられなかった側面に焦点を当て、日本仏教グローバル化を多面的に考察することを目指した。国内外から60名を超す参加者があり、今後研究すべきテーマや事例などについて様々な視点から議論が行われた。本研究のテーマである日本仏教グローバル化について、総括となる研究集会となった。プログラムは以下の通り。

<p>「シカゴ万博と仏教」 （6月20日）</p>	<p>守屋友江「プロジェクト趣旨説明」 発表：日沖直子「平井金三と万国宗教会議 会議参加の経緯をめぐって」、高瀬航平「平井金三の演説における条約改正と宗教の関係について 移民問題を中心に」、奥山直司（高野山大学）「万国宗教会議から世界周遊へ 土宜法龍の会議出席に関する疑問点」、長尾佳代子「Paul Carus にとっての日本の僧侶」 コメント：末木文美士 司会兼オーガナイザー：飯島孝良、堀まどか</p>
<p>「シカゴ宗教会議とその後」 （6月21日）</p>	<p>吉永進一（龍谷大学）「二日目趣旨説明」 発表：木村智（東京大学・院）「アメリカ・プロテスタント界において万国宗教会議とは何だったのか」、岡本佳子「シカゴ万国宗教会議以後の展開 アジアにおける宗教会議の試み」、星野靖二（國學院大学）「シカゴ宗教会議と「日本のキリスト教」をめぐる諸相」、杉本良男「世界の負債」 コメント：嵩満也（龍谷大学） 司会兼オーガナイザー：末村正代、佐藤清子（聖心女子大学）</p>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 35
2. 論文標題 創造的な翻訳者・鈴木大拙	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Kotoba	6. 最初と最後の頁 49-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 58(3)
2. 論文標題 神秘と抽象 鈴木大拙と南方熊楠	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文芸	6. 最初と最後の頁 440-460
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二、中島岳志、若松英輔	4. 巻 74(2)
2. 論文標題 特別鼎談 大拙、その可能性と不可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 86-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末木文美士	4. 巻 68
2. 論文標題 「場所」と「超越」 キリスト教と仏教は統合できるか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 点と線	6. 最初と最後の頁 2-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守屋友江	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 「太平洋の交差点」の日本仏教 グローバル化とローカル化の交錯	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館言語文化研究	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34382/00003184	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 2018年5月号
2. 論文標題 大拙(八)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 150 ~ 173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 46巻10号
2. 論文標題 「東方哲学」素描 鈴木大拙・折口信夫・井筒俊彦の仏教	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 48 ~ 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永進一	4. 巻 46巻10号
2. 論文標題 神智学と仏教、マクガヴァンとその周辺	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 405 ~ 421
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永進一	4. 巻 54
2. 論文標題 アディロンダックの一夜：『宗教的経験の諸相』背後の2, 3の物語	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 舞鶴工業高等専門学校紀要	6. 最初と最後の頁 79～88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 33
2. 論文標題 『大乘仏教概論』の新たな位置づけ 新発見資料を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 27～37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤井敏夫	4. 巻 33
2. 論文標題 松ヶ岡文庫における外国語雑誌に関して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 37～49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永進一	4. 巻 33
2. 論文標題 大拙夫妻と神智学 大拙英文日記とピアトリス資料を参照して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 1～24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日沖直子	4. 巻 33
2. 論文標題 鈴木ピアトリスと動物たちー松ヶ岡文庫所蔵資料にみる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 25～45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshio Akai	4. 巻 33
2. 論文標題 On the "Foreign Journals and Periodicals" in the Matsugaoka Library: A Brief Survey of the Published Materials D. T. and Beatrice Suzuki Collected	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 47～61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 リチャード・M・ジャフィ (著)、守屋友江 (訳)	4. 巻 32
2. 論文標題 (翻訳) 鈴木大拙と二人のクレイン アメリカの慈善事業と鈴木 of グローバルな計画	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 111-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永進一	4. 巻 32
2. 論文標題 Beatrice Lane Suzuki研究について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 松ヶ岡文庫研究年報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永進一	4. 巻 34
2. 論文標題 大拙研究の新展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アンジャリ	6. 最初と最後の頁 26-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 2017年4月号
2. 論文標題 大拙 (四)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 236-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 2017年10月号
2. 論文標題 大拙 (五)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 210-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 2018年2月号
2. 論文標題 大拙 (六)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群像	6. 最初と最後の頁 225-246
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 48(15)
2. 論文標題 いま大拙を読み直すために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 8-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤 礼二、福嶋 亮大	4. 巻 48(15)
2. 論文標題 討議 知られざる鈴木大拙 エッセイスト・ジャーナリスト・エディター	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 56-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤礼二	4. 巻 48(15)
2. 論文標題 未知なる大拙と出会う	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 319-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末木文美士	4. 巻 48(15)
2. 論文標題 大拙の両面 思想的深化と世界への発信	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 36-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守屋友江	4. 巻 48(15)
2. 論文標題 ピアトリスと大拙の選択	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 155-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永進一	4. 巻 48(15)
2. 論文標題 学問・経験・スウェーデンボルグ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 182-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾佳代子	4. 巻 34
2. 論文標題 The Gospel of Buddha 受容の諸相 福音か疑経か	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 パーリ学仏教文化学	6. 最初と最後の頁 61-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 リチャード・M・ジャフィ、末村正代(訳)	4. 巻 13
2. 論文標題 コロンビア・セミナー講義と鈴木大拙の遺産	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文明と哲学	6. 最初と最後の頁 8-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 守屋友江	4. 巻 13
2. 論文標題 鈴木大拙の『新宗教論』と社会批評	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文明と哲学	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末木文美士	4. 巻 令和二年度
2. 論文標題 土宜法龍研究序説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高山寺典籍文書調査団研究報告論集	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤井敏夫	4. 巻 73
2. 論文標題 The Mother's Four-Year Stay in Japan, a Research Note	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Mother India	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯島孝良	4. 巻 6
2. 論文標題 大拙における禅思想史観と「日本」の位置 「業繋苦」と「靈覚」への問いとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際禅研究	6. 最初と最後の頁 196-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 守屋友江
2. 発表標題 ニューヨーク禅堂とハワイ大学の大拙関係資料紹介
3. 学会等名 鈴木大拙研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤井敏夫
2. 発表標題 “Who Sang behind the Hawk’s Dance?” The Formation of Oriental Images in Yeats’ Play
3. 学会等名 2019 IASIL International
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤井敏夫
2. 発表標題 Tamijuro Kume and International Lodge Tokyo
3. 学会等名 2019 International Theosophical History Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長尾佳代子
2. 発表標題 2019 SIUCアーカイブ調査報告
3. 学会等名 オープンコート社資料報告研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守屋友江
2. 発表標題 D.T. Suzuki at the World Congress of Faiths in 1936: An Analysis on His Presentation at the Interfaith Conference
3. 学会等名 Seminar on Japanese Buddhism in Europe (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉永進一
2. 発表標題 ラウンドテーブル「近代仏教と新宗教をつなぐもの：プラクティスの問題」
3. 学会等名 ワークショップ「近代仏教から新宗教、そしてその後」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉永進一
2. 発表標題 ラウンドテーブル「ヨガ・三浦関造・関口野薔薇・中野義超・日本神学・三五教：戦後オカルトと宗教帰一運動」
3. 学会等名 ワークショップ「近代仏教から新宗教、そしてその後」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾佳代子
2. 発表標題 南イリノイ大学所蔵オープンコート資料調査報告 シカゴ万博宗教会議後、ヘゲラー邸を訪問した日本人が残した漢詩
3. 学会等名 鈴木大拙研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日沖直子
2. 発表標題 平井金三とシカゴ万国宗教会議～「条約改正」運動をめぐる新資料
3. 学会等名 鈴木大拙研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高瀬航平
2. 発表標題 平井金三とシカゴ万国宗教会議：「条約改正」をめぐって
3. 学会等名 鈴木大拙研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉永進一
2. 発表標題 鎮魂帰神法と大本教、再考
3. 学会等名 日本新宗教史像の再構築 第1回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤礼二
2. 発表標題 鈴木大拙・折口信夫・井筒俊彦 「東方哲学」素描
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 守屋友江
2. 発表標題 アメリカ人に説く禅と真宗 鈴木大拙の在米講演に関する考察 (パネル「東西を往還する日本仏教 鈴木大拙とその周辺の思想交流から」)
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉永進一
2. 発表標題 コメント パネル「東西を往還する日本仏教 鈴木大拙とその周辺の思想交流から」
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉永進一
2. 発表標題 忽滑谷快天について知っている、一、二の事柄
3. 学会等名 「明治仏教」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤井敏夫
2. 発表標題 The Global Network a Vegetarian Restaurant in Dublin Represents
3. 学会等名 The International Yeats Society Symposium in Kyoto
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤礼二
2. 発表標題 リブライ 「安藤礼二『大拙』を読む」
3. 学会等名 鈴木大拙研究会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉永進一
2. 発表標題 コメント 嵩宣也「英訳仏書の黎明期における「真如」の訳語とその諸相」
3. 学会等名 鈴木大拙研究会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 守屋友江
2. 発表標題 コメント 長尾佳代子「南イリノイ大学のオープンコート社資料について」
3. 学会等名 鈴木大拙研究会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤井敏夫
2. 発表標題 久米民十郎の再発見
3. 学会等名 神戸学院大学人文学会第21回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日沖直子
2. 発表標題 平井金三と万国宗教会議 会議参加の経緯をめぐって
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高瀬航平
2. 発表標題 平井金三の演説における条約改正と宗教の関係について 移民問題を中心に
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 奥山直司
2. 発表標題 万国宗教会議から世界周遊へ 土宜法龍の会議出席に関する疑問点
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾佳代子
2. 発表標題 Paul Carusにとっての日本の僧侶
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村智
2. 発表標題 アメリカ・プロテスタント界において万国宗教会議とは何だったのか
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本佳子
2. 発表標題 シカゴ万国宗教会議以後の展開 アジアにおける宗教会議の試み
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 星野靖二
2. 発表標題 シカゴ宗教会議と「日本のキリスト教」をめぐる諸相
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉本良男
2. 発表標題 世界の負債
3. 学会等名 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 末村正代
2. 発表標題 近代における日本宗教の越境 千崎如幻を事例として
3. 学会等名 宗教倫理学会夏季研修会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯島孝良
2. 発表標題 大拙の禅学における「靈覺」 「矛盾的自己」をめぐる問いとして
3. 学会等名 西田哲学会第 18 回年次大会シンポジウム「靈性」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日沖直子
2. 発表標題 雑誌『イースタン・ブディスト』と神智学
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 莊千慧
2. 発表標題 上海神智学支部と初代会長H・Pシャストリー
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 末村正代
2. 発表標題 北米における禪布教：千崎如幻の場合
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 在日インド人をめぐる諜報活動と神智学 アタル・シャストリ・サバルワル
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 栗田英彦
2. 発表標題 キリスト教・社会主義・オカルト 関口野薔薇の「神道神学」の背景
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岡本佳子
2. 発表標題 明治日本の欧米人仏教徒と神智学
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Helena Capkova
2. 発表標題 History of the Theosophical Society in Interwar Japan Reading the documents from the Adyar HQ
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ioannis Gaitanidis
2. 発表標題 Western Esotericism in Contemporary Japan: The Case of a Greek Theosophical Study Group
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 水野友晴
2. 発表標題 純粹経験と靈性的自覚 西田と大拙をつなぐ「自覚」の問題
3. 学会等名 公開シンポジウム「大拙研究の周辺：西田哲学と禅の近代化の視点から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井公成
2. 発表標題 近代における "Zen" の登場と心の探求
3. 学会等名 公開シンポジウム「大拙研究の周辺：西田哲学と禅の近代化の視点から」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 末木文美土、飯島孝良、名和達宣
2. 発表標題 安藤礼二『大拙』を読む
3. 学会等名 鈴木大拙研究会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高宣也
2. 発表標題 英訳仏書の黎明期における「真如」の訳語とその諸相
3. 学会等名 鈴木大拙研究会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長尾佳代子
2. 発表標題 南イリノイ大学のオープンコート社資料について
3. 学会等名 鈴木大拙研究会公開ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日沖直子
2. 発表標題 Eastern Buddhist 第一期の購読者リストについて (パネル「東西を往還する日本仏教 鈴木大拙とその周辺の思想交流から 」)
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 末村正代
2. 発表標題 千崎如幻の米国禪布教における特質 浮遊禪堂と東漸禪窟の実態
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡本佳子
2. 発表標題 鈴木大拙と岡倉覚三 英語圏に伝えられた禪と日本文化
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安藤礼二、稲賀繁美
2. 発表標題 鈴木大拙と南方熊楠 シカゴ万博・神智学・大乘仏教
3. 学会等名 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 マイカ・アワーバック
2. 発表標題 昭和初期における欧米人參禪受入の試み 八幡達磨堂円福寺「外人禪堂」を中心に
3. 学会等名 鈴木大拙研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ブライアン・ピクトリア
2. 発表標題 鈴木大拙禪とテロ行為
3. 学会等名 鈴木大拙研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 栗田英彦、塚田穂高、吉永進一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 420
3. 書名 近現代日本の民間精神療法	

1. 著者名 高 満也、吉永 進一、碧海 寿広	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 366
3. 書名 日本仏教と西洋世界	

1. 著者名 未木 文美士	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 276
3. 書名 日本思想史	

1. 著者名 安藤 礼二	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 354
3. 書名 大拙	

1. 著者名 赤松徹真(編)、藤原正信、吉永進一、近藤俊太郎、中西直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 384
3. 書名 『反省会雑誌』とその周辺	

1. 著者名 久保田浩ほか5名編、岡本佳子、守屋友江ほか14名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 リトン	5. 総ページ数 480
3. 書名 越境する宗教史 上	

1. 著者名 末木文美士ほか3名編、末木文美士ほか13名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 274
3. 書名 維新の衝撃(近代日本宗教史第1巻)	

1. 著者名 島園進、末木文美士ほか2名編、安藤礼二、守屋友江ほか12名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 274
3. 書名 教養と生命 (近代日本宗教史第3巻)	

1. 著者名 山田奨治、ジョン・ブリーン編、末木文美士、安藤礼二ほか14名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 450
3. 書名 鈴木大拙 禅を超えて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>Workshop: Asia, Buddhism, and Theosophy https://jnaseblog.wordpress.com/2017/10/02/workshop-asia-buddhism-and-theosophy-dec-910-2017/ 鈴木大拙研究会第1回公開シンポジウム「大拙研究の周辺：西田哲学と禅の近代化の視点から」 http://blog.livedoor.jp/kindaibukkyo/archives/6888866.html 科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ https://globalzenkaken.org/2020/06/01/workshop/</p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	安藤 礼二 (Ando Reiji) (20445620)	多摩美術大学・美術学部・教授 (32640)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉永 進一 (Yoshinaga Shin'ichi) (90271600)	舞鶴工業高等専門学校・その他部局等・教授 (54301)	
研究分担者	赤井 敏夫 (Akai Toshio) (00192873)	神戸学院大学・人文学部・教授 (34509)	
研究分担者	長尾 佳代子 (Nagao Kayoko) (50342522)	大阪体育大学・体育学部・教授 (34411)	
研究分担者	末木 文美士 (Sueki Fumihiko) (90114511)	国際日本文化研究センター・研究部・名誉教授 (64302)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	日沖 直子 (Hioki Naoko)		
研究協力者	莊 千慧 (Chuang Chienhui)		
研究協力者	末村 正代 (Suemura Masayo)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	橋本 順光 (Hashimoto Yorimitsu)		
研究協力者	栗田 英彦 (Kurita Hidehiko)		
研究協力者	岡本 佳子 (Okamoto Yoshiko)		
研究協力者	杉本 良男 (Sugimoto Yoshio)		
研究協力者	稲賀 繁美 (Inaga Shigemi)		
研究協力者	チャブコーヴァ ヘレナ (Capcova Helena)		
研究協力者	ガイタニディス ヤニス (Gaitanidis Ioannis)		
研究協力者	スタイン ジャスティン (Stein Justin)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	水野 友晴 (Mizuno Tomoharu)		
研究協力者	石井 公成 (Ishii Kosei)		
研究協力者	飯島 孝良 (Iijima Takayoshi)		
研究協力者	名和 達宣 (Nawa Tatsunori)		
研究協力者	高 宣也 (Dake Nobuya)		
研究協力者	アワーバック マイカ (Auerback Micah)		
研究協力者	ビクトリア ブライアン (Victoria Brian)		
研究協力者	高瀬 航平 (Takase Kohei)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	奥山 直司 (Okuyama Naoji)		
研究協力者	木村 智 (Kimura Satoru)		
研究協力者	星野 靖二 (Hoshino Seiji)		
研究協力者	高 満也 (Dake Mitsuya)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際ワークショップ「アジア・仏教・神智学 (Asia, Buddhism, and Theosophy)」	開催年 2017年～2017年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
デンマーク	Aarhus University			
米国	Duke University	Oberlin College	University of Michigan	